

両親の残した実家をゆっくりと片づけようとしていたところ、法人に立ち退きを迫られ、じわじわと、まさに追い詰められました。いろいろ悩みながら決めた移転。とりあえず荷物を  
お任せ  
掘り込む、という選択もありましたが、とりあえず父母が暮らした町のなかに新たに見つけた物件で、これまで大切にしてきた時間と労力を無駄にすることなく再出発するために、と決断した今回のリノベーションでした。

以前に行った自宅のリノベーションの際はもっとたくさん時間をかけられたので、それらと比べれば、今回はほんとうに限られた時間の中で様々なことを決めてゆかねばならなかったのが大変でした。

藤田さん、小林さんの手腕を信頼していたし、こちらの思いも理解していただき、誠実にかかわっていただけました。ありがとうございました。依頼して間違いなかったなあ、と思っています。

仮住まい、引っ越しの手配にもサポートもしていただき、とても助かりました。配管のこと、照明のこと、どんなことでも対応していただき、安心してお願いできました。

そして、中でも、実家のガラスやドアを外して再利用していただいたことがうれしかったです。解体前の現況のままの実家をお二人とも見に来てくださり、お話も聞いていただきました。苦勞した親が、必死に働いて建てた家で、看取った後も活用していこうといろいろ考えてお金をかけて修繕した実家でした。もったいないという思いよりも、ここまで時間をかけてきたことが何もなくなってしまうことに対しての無念さがあり、向き合うことも辛かった時さえありました。

最終的に、手放すこと＝解体ということになり、そのこと自体をとっても悩んで決断しました。

実家は2月につぶされ、周辺も含め全く跡形もなくなってしまったのですが、今あるこの空間に、その一部が形を変えてちゃんと存在しているということ自体がとてもうれしく、愛おしくさえ感じています。まだまだ途中だった遺品の整理や父の残した資料の整理も少しずつしていきたいと思います。

他人からすれば単なる廃品であり、サイズもデザインも使いにくく古びたものですが、やはりとても思い出のあるものでした。

本当にありがとうございました。

大事にされてきた「ご両親の思い」と共に、  
生きられているお話をおうかがいして、私  
共もリノベーションは、お客様の人生に寄  
り添うこと、暮らしと魂が共にあること、で  
あると改めて感じます。